2019 Vol.1

TDA PRESS

栃木県防衛協会新聞

国旗を中心に陸海空３自衛隊をイメージしたものです

TOCHIGI DEFENSE ASSOCIATION

■編集･発行　栃木県防衛協会
〔事務局取次〕
〒320−0043 栃木県宇都宮市桜5-1-13
自衛隊栃木地方協力本部
TEL：028-634-3385　FAX：028-634-3387
ホームページ　http://www.t-bouei.com 検索
□ニュースの提供／読者欄への投稿／ご意見･ご感想は上記へ

栃木県防衛協会 会長 青木 勲

あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、ご家族ともども輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から栃木県防衛協会の活動に対して格別なる御支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境は、目まぐるしく変化し、北朝鮮は、昨年歴史的な米朝首脳会談を行い、朝鮮半島の完全な非核化に向けた意思を表明しましたが、現在も多数の弾道ミサイルと核兵器を保有している事には変わりがなく、今後も注視していく必要があります。また、中国においては我が国周辺海空域での活動の活発化、南沙諸島での岩礁埋め立て、滑走路の建設など、一層厳しさを増しております。

このような中、自衛隊の皆様は日夜我が国の安全保障という崇高な任務に精励されているだけではなく、国内外において様々な活動を行っております。

昨年、国内外では多くの自然災害が発生し、それに伴う災害派遣においては、隊員の皆様が献身的な救助活動にあたり国民の負託にこたえられました。

また、海外では、ソマリア沖・アデン湾海賊対処などの諸活動が世界各地で行われており、国際的にも高い評価を得ております。

これらの国内外での活動により、国民の自衛隊に対する信頼と期待は一段と高まってきております。

栃木県防衛協会は、協会理念を追求し、より充実した諸活動を通じ、県民の皆様に対し国防の重要性を広く普及・高揚してまいります。そして自衛隊の皆様が自信と誇りを持って任務に全うするため、支援･協力･激励を行っていく所存であります。引き続き皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

結びに、本年が皆様そしてご家族にとりまして、ますます良い年になりますようご祈念申し上げ新年のご挨拶と致します。

新春の栃木の空に羽ばたく ～航空学校宇都宮校

航空学校宇都宮校は1月初旬、宇都宮校のUH-1J・TH-480Bをもって今年1年の飛行安全を祈念する年頭編隊飛行を実施した。写真は勇壮な日光連山をバックに、見事な隊形で飛行する様子。

雪景色の日光連山を背景に、見事なフォーメーションで飛行する航空学校宇都宮校のUH-1J

賀詞交歓会を開催 防衛講話・懇親会も

（2面に関連記事）

航空学校宇都宮校のTH-480Bのフォーメーション

つれづれ考

2019年、平成31年は、昭和94年、大正108年、明治でいうと152年。「昭和は遠くなりにけり」などという言葉が重みを増してきた。◆衛生状態の悪い江戸期の日本の人口は約3100万人だったが、明治時代になり出生率が高いまま死亡率が低下して人口は5000万人に増加◆大正時代には5500万人、「産めよ増やせよ」の昭和前期には8000万人を超え2008年には1億2000万人のピークに◆人口は2000年代に減少傾向に転じ、少子化の現状が強く認識されるようになり2003年に少子化社会対策基本法が制定された◆国際的な意識調査によれば、「あなたの国は、子どもを産み育てやすい国だと思いますか」の質問に対して、日本では4割以上が「そう思わない」と回答しており、国際的に見てその割合は相当に高い◆高齢者向け社会保障制度に比べて、少子化対策は非常に遅れをとっている◆少子化問題は日本の安全保障や防衛にも深刻な影響を与える問題であり、早急に対策を取らなければ取り返しがつかなくなる問題だ◆平成から新しい年号に移行する節目の年、将来の日本が少子化問題を克服し力強く豊かな国になる事を願う。

各面あんない

2 □陸自と栃木県警が合同訓練

3 □多国間訓練「コブラ・ゴールド」

4 □SUBARU 防衛省に UH-X を納入

6 □百里基地航空祭 2018

次号は５月31日付です

☆防衛省・自衛隊全般についてのお問い合わせは
自衛隊栃木地方協力本部　TEL：028−634−3385へ

平成31年 栃木県防衛協会賀詞交歓会

来賓あいさつ

佐藤明男
衆議院議員

佐藤　勉
衆議院議員

船田　元
衆議院議員

茂木敏充
衆議院議員

諸石正弘
自衛隊栃木地本長

五十嵐清
栃木県議会議長

福田富一
栃木県知事

高橋克法
参議院議員

青木会長あいさつ

亀田　清
栃木県議会議員

金子　裕
栃木県議会議員

池田　忠
栃木県議会議員

石田広記中央即応連隊長による防衛講和。
演題は「陸上自衛隊の国際平和活動等と中央即応連隊の活動」

ワック WAC登場
陸上自衛隊女性自衛官

第317基地通信中隊北宇都宮派遣隊

1等陸士 吉原（よしはら）　瑞貴（みずき）さん

茨城県常総市出身

趣味・特技　バスケットボール

平成30年３月　朝霞駐屯地　女性自衛官教育隊
　　７月　朝霞駐屯地　東部方面通信群教育隊
　　10月　第317基地通信中隊北宇都宮派遣隊
　　信電手

ひとこと

私は、第317基地通信中隊北宇都宮派遣隊に所属し、信電手として勤務しています。現在は、一般市民や企業からの電話を各部隊に繋げる業務や、駐屯地間での電報の送受信を主に行っています。他にも通信機材を扱うことや、事務作業をします。まだまだ覚える事や勉強する事ばかりですが、通信を維持・運営していくために大事な事ばかりだと思っています。知識や技術を身に付け少しずつ成長出来るよう、これからもがんばっていきたいと思います。

●女性自衛官の略称●

陸自　WAC　ワック
海自　WAVE　ウエーブ
空自　WAF　ワッフ

陸自と栃木県警が合同訓練
武装工作員の国内侵入想定

栃木県警と自衛隊による治安出動を想定した共同実働訓練が２月初旬に宇都宮駐屯地などで行われた。この訓練は有事の際に警察・自衛隊が連携し活動できるようにする目的で行われており、今回で８回目となる。

訓練は日本国内に武器を持った工作員が侵入し、自衛隊に治安出動命令が下されたという状況で進められ、検問を張るために警察と自衛隊が現場へ向かう想定で、サイレンを鳴らしたパトカーが先導し、自衛隊車両が駐屯地を出発した。

宇都宮市消防出初式
陸上自衛隊が参加

栃木県防衛協会会長を表敬訪問
航空自衛隊中部航空方面隊司令官 増子 豊 空将

平成31年　新春メッセージ

自衛隊
栃木地方協力本部長
1等陸佐
諸石　正弘

栃木県防衛協会の皆様、新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、自衛隊地方協力本部はもとより県内所在の自衛隊各部隊に対する幅広いご支援、ご協力を頂いたことに栃木県内の自衛隊を代表し厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の安全保障環境は様々な課題や不安定要素がより顕在化・先鋭化してきており、格段に早いスピードで厳しさと不確実性を増しています。また国内でも大規模災害がいつどこで生起してもおかしくない状況が続いています。

このような中、全国の自衛隊は、我が国防衛の「最後の砦」として任務に全力で取り組んでおり、昨年12月には新たな「防衛計画の大綱・中期防衛力整備計画」が策定されました。

我々栃木地本の各業務を取り巻く環境も少子化による人口減少、好景気を背景とした若年労働者不足や予備自衛官等の低充足等、引き続き厳しい状況下にありますが、平時における実戦ともいえる自衛官募集、就職援護および予備自等の本来任務の完遂だけではなく各種事態生起時には部隊の初動に先立つ情報収集活動や活動基盤の提供等、正に第一線の役割が期待されています。

したがって私は本年も「常に第一線との意識の下、全ての部隊内外組織と統合一体化した任務の完遂」との統率方針の下、自信・誇り・使命感・責任を果たしていく決意であります。

結びに本年が皆様にとって素晴らしい一年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせて頂きます。

陸上自衛隊
宇都宮駐屯地司令
1等陸佐
小田島邦弘

新年明けましておめでとうございます。

防衛協会の皆様におかれましては、ご家族ともども清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、旧年中に賜りました宇都宮駐屯地に対するご支援、ご協力に、駐屯地所属隊員を代表し改めて厚く御礼申し上げます。

昨年、皆様のご支援、ご協力により宇都宮駐屯地各部隊は、新潟県佐渡市広域断水に伴う給水支援、西日本豪雨災害に伴う給水及び防疫の生活支援や道路の啓開、北海道胆振東部地震に伴う道路の啓開の災害派遣の任務を無事完遂するとともに、教育訓練に専念して、国家防衛、栃木県民の安心・安全、国際平和協力活動等のための力を蓄えることができました。

さて、現在、我が国を取り巻く安全保障環境は厳しさが増しています。

特に、北朝鮮の核開発及び弾道ミサイルは、依然として脅威であり、中国の尖閣諸島周辺における活動の活発化は予断を許さない状況です。加えて、我が国は大規模地震、火山噴火、異常気象等に伴う自然災害が発生するリスクも高く、複雑な事態が同時に発生する恐れも否定できません。

そのような一層厳しさが増す我が国を取り巻く安全保障環境や国内の自然災害等に対応すべく、我々北宇都宮駐屯地各部隊は、「何時如何なる任務にも即動し、任務を完遂し得る逞しい部隊」を目指し、日頃から心身を鍛え、技を磨くとともに、思いやりと地域との絆と信頼を更に深め、「地域から信頼される駐屯地」として駐屯地全隊員が一致団結し、我が国の防衛はもとより栃木県民の安心・安全及び地域の発展に寄与するために各々の職務に邁進して参りますので、これまでと変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、栃木県防衛協会の益々のご発展と会員皆様が幸多く健やかな一年となりますようにお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

陸上自衛隊
航空学校宇都宮校長
兼北宇都宮駐屯地司令
1等陸佐
木戸口和彦

新年あけましておめでとうございます。旧年中は様々な形で多数のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年は平成最後の年明けとなりました。平成の30年間を振り返ると、冷戦の終結に始まり、国際貢献への期待の高まり、テロやミサイルなどの新たな脅威の表面化、グローバルなパワーバランスの変化など我が国を取り巻く環境は大きく変化し、現在は、これまでに増して大変厳しくかつ不透明な安全保障環境となっています。国内に目を転じても、これまでにない集中豪雨などの異常気象の頻発、大規模地震、さらなる大規模地震の可能性など安心・安全を脅かす事象の生起が危惧されるところです。

こうした中、北宇都宮駐屯地は北関東における陸自の航空拠点として日夜、教育訓練、人材育成に邁進しております。本年もこれまで以上に隊員一丸となり、航空安全を確保しつつ皆様方のご期待に添えるよう任務完遂にまい進していく所存です。本年も変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が穏やかな年となり、皆様にとり輝かしい一年になりますようお祈り申し上げ新年のご挨拶とします。

多国間訓練「コブラ・ゴールド」タイで在外邦人等保護措置訓練

中央即応連隊などが参加

1月14日からタイで行われていた、米・タイ共催の多国間共同訓練「コブラ・ゴールド19」が2月23日に終了した。

陸海空自衛隊・関連省庁らも人員約170名が参加し、宇都宮駐屯地からは中央即応連隊（石田広記連隊長）から約50名の隊員も参加した。

コブラ・ゴールドの訓練内容は、大きく分けて在外邦人等保護措置、海賊対処行動、国際平和共同対処事態における協力支援活動・船舶検査活動に係る対処及び多国籍軍司令部との調整等、実動訓練から成る。

在外邦人等保護措置訓練においては、先遣調査チームによる活動、在外邦人等の陸上輸送、警護、在外公館からの引継ぎ、航空機への誘導及び航空機による輸送に至る在外邦人等の保護措置に係る一連の活動などの訓練を実施した。まず隊員たちは、基地エリア外の一時避難所に集まった邦人らを大使館職員から引き継ぎ、車両に乗せ飛行場地区の避難統制所（Evacuation Control Center: ECC）まで一般道を軽装甲機動車（LAV）で先導。基地では日・米・タイの3カ国が共同で多国間調整所を設置し、避難者を誘導して航空機搭乗前の手荷物検査などに当たった。その後、待機中の空自C－130H輸送機に邦人らを乗せて基地を離陸。邦人らを「国外に脱出」させるまでの一連の行動を確認しながら訓練を実行した。

自衛隊は、平成17年からコブラ・ゴールドに参加しており、本年は15回目の参加となる。

一時待避所に集まった邦人をECCまで警護しながら先導する中即連のLAV　〔防衛省・自衛隊〕

コブラ・ゴールド19に参加した各国関係者を集めた記念写真　〔U.S. Indo-Pacific Command〕

国外に脱出する邦人と空自のC-130H輸送機を警護する中即連隊員　〔防衛省・自衛隊〕

ニュースクリップ

■自衛官定年引上げ　1佐～3曹1歳ずつ

防衛省は12月21日、1佐から3曹までの自衛官の定年年齢をそれぞれ1歳ずつ引き上げることを決めた。自衛隊法施行令などの改正を検討し、2020年1月以降の実施を目指す。装備品の高度化や任務の国際化などに対応できる知見を豊富に備えた人材の有効活用を図る事が目的。

■F35を105機追加調達

防衛省は12月18日、新たな「防衛計画の大綱」の策定に合わせ、空自が導入を進めている最新鋭戦闘機F－35について、新たに105機を追加調達する方針を閣議了承した。このうち42機は短距離離陸・垂直着陸が可能なB型とする予定で、将来的にはAB両型合わせて147機体制となる。

■シナイ半島への陸自派遣を検討

政府は1月22日、エジプト東部のシナイ半島でエジプト、イスラエル両軍の停戦監視活動を行う「多国籍軍・監視団」（MFO）の司令部要員として、陸自隊員を派遣する検討を始めると発表した。MFOからの要請を受け、若干名の派遣を想定する。実現すれば平和安全法制で可能となった「国際連携平和活動」に基づき、国連が統括しない国際貢献活動に従事する初のケースとなる見通し。

■護衛艦「いずも」韓国寄港見送り

防衛省は2月5日、4月から5月にかけて韓国などで開催される多国間訓練について、ヘリ搭載型護衛艦「いずも」の釜山への寄港を見送ると韓国側に通知した。防衛省の青柳肇報道官は同日の記者会見で「日韓関係が建設的に前進する方向で対応する事が重要。検討した結果今般の対応が最も適切であると判断した。」と説明した。

防衛省に陸自向け新多用途ヘリコプター試作機を納入

SUBARU航空宇宙カンパニー宇都宮製作所

株式会社SUBARUは2019年2月28日（木）航空宇宙カンパニー宇都宮製作所で陸自の新多用途ヘリコプター試作機UH－Xの防衛省への納入式を実施した。

納入されたUH－Xは、ベル・ヘリコプター・テキストロン社と共同開発した民間向け最新ヘリコプター「SUBARU BELL 412EPX」を共通プラットフォームとし、陸自向けに開発された機体で、2018年12月末に初飛行し、性能確認や実証作業・防衛省の確認を経てこの日に納入された。「SUBARU BELL 412EPX」は国交省航空局から型式設計変更承認を取得しており、SUBARUは防衛省向け事業とあわせ、民間向けの412EPXの製造、販売を推進していく方針だ。

今後、防衛装備庁で陸自での運用の適合性を1年ほど掛けて確認した後に量産が開始される見通しだ。

宇都宮製作所格納庫でUH-Xの新造機を前にして行われた納入式の様子　〔防衛省〕

宇都宮製作所に掲げられた納入式の案内板

試作機納入式のテープカット。写真中央は山崎陸幕長　〔陸上自衛隊〕

（上）宇都宮飛行場においてUH-Xが初飛行を行った瞬間を捉えた写真。関係者に見守られる中、UH-Xが宇都宮の地で初めて日本の空に舞い上がった。　〔偶然に撮影：編集長〕

（右）格納庫内で公開されたUH-X。陸自の現用UH-1Jと比較すると、外観では2枚から4枚ブレードに、トランスミッションにドライラン機能を追加、ツインエンジン搭載、防御装置などの追加、尾部の形状、機内操縦席の計器盤はグラスコックピットに刷新されている。

群馬県安中市で山林火災が発生

自衛隊が災害派遣

第12ヘリコプター隊

平成31年1月3日（木）群馬県安中市松井田町坂本地内碓氷において山林火災が発生し、消防により消火活動を実施するも鎮火に至らず。このため、3日12時47分、群馬県知事から陸上自衛隊第12旅団長（相馬原）に対して、山林火災の空中消火活動に係る災害派遣要請があった。

これに対し、陸自は第12旅団司令部（相馬原）、東部方面航空隊（立川）、第48普通科連隊（相馬原）、第12ヘリコプター隊（相馬原、北宇都宮）、第12後方支援隊（新町）が航空機 8機（延べ15機）その他LO人員8名、LO車両4両（延べLO人員16名、LO車両8両）を派遣し対処した。

主な活動内容は、LOの群馬県庁、安中市役所への派遣、UH－1（映像伝送機）による情報収集、CH－47による散水量情報収集、OH－6による空中消火活動、UH－60による航空偵察など。13時32分 群馬県知事から撤収要請を受け、空中消火活動を終了。

山林火災が鎮火に至ったことから、撤収要請により部隊は活動を終えた。

CH－47による散水量散水回数は、3日（木）約235トンを47回、4日（金）約315トンを63回散水し、合計で約550トンを110回散水した。

また発災同日に、同じく群馬県安中市における人命救助に係る災害派遣が有った。

1月3日15時40分頃、群馬県安中市松井田町坂本地内碓井において消火活動中の群馬県の消防隊員（1名）が滑落し、当該者の人命救助に係る災害派遣要請が第12旅団長（相馬原）にあった。15時58分 群馬県知事から第12旅団長に対して、人命救助に係る災害派遣要請。16時23分 第48普通科連隊の部隊（人員約25名、車両3両）が人命救助活動のため現地に向け出発。16時41分 第12ヘリコプター隊のUH－60×1機が人命救助活動のため北宇都宮駐屯地を離陸。19時40分 第48普通科連隊の部隊が要救助者1名を収容し、第12ヘリコプター隊（北宇都宮）のUH－60において高崎ヘリポートに搬送。じ後、消防に引き渡し。20時12分 群馬県知事から撤収要請を受け、人命救助活動を終了した。

山林火災消火のために活動する第12ヘリコプター隊のCH-47　〔陸上自衛隊〕

話題の本

兵頭二十八『たんたんたたた』（機関銃と近代日本）

なぜ戦前日本の自動火器はつねに欧米製品に半歩手前まで追いつけどもリードすることはできなかったのか―幕末の『甲鉄』艦に搭載されたガトリング砲から、四式戦闘機「疾風」の20ミリ機関砲まで、近代日本の自動火器の歴史を辿り、西洋技術を取り込み、外国製火器を個々に国産化するために苦闘をかさねた日本兵器技術者たちの姿が描かれている。

様々な歴史的資料の断片に見え隠れする自動火器の歴史の欠片をつなぎ合わせ、自動火器の歴史書として組立て上げた作品だ。

「ページをありふれたデータの羅列で埋めたくなかった。容易に検索できるような要目諸元の紹介を省いた。」「本のバランスを考え、図面や写真などの図版類は一切使わなかった。」という作者の言葉には、作者の真面目で正直な人間性と情熱、伝えたい思いが込められている。

一読すると、日本の火器のルーツと歴史がよく理解できます。この書は是非防衛協会や現役自衛官の皆様にも読んで頂きたいです。おススメです。

（光人社NF文庫・八四三円）

グラフ特集1

平成31年 降下訓練始め

陸上自衛隊第1空挺団（団長　戒田重雄陸将補）による降下訓練始めが1月13日、千葉県習志野演習場で行われた。

本年の降下訓練始めは「日米空挺の絆」をテーマとして実施された。

降下訓練は日米の指揮官自らの降下を皮切りに開始され、地上戦闘訓練展示は離島防衛のシナリオのもと5機の固定翼機から陸自の空挺団の隊員とともにアメリカ軍第25師団第4空挺旅団戦闘団、および沖縄の第1特殊部隊群に所属する米陸軍空挺の精鋭たちも一斉に降下した。

今回の降下訓練始めでは航空自衛隊の最新鋭輸送機C-2による降下が初公開されたほか、固定翼輸送機からの降下は空挺傘が全て13傘に統一され、両扉から一斉に20名が降下して大量の隊員を一斉に目標地点に降下させる様子が見られた。

演習では更に、陸海空の様々な部隊が参加し、多次元統合防衛力をもって「領土・領海・領空は断固として守る」という気概が内外に示された。

▲C-130輸送機（小牧）から13傘により両扉から各10名(計20名)が一斉に降下を行う

最新鋭のC-2輸送機(美保)からの降下。降下訓練始めでは今回が初公開となり話題になった

UH-1J(立川)からのラペリング降下

CH-47J(木更津)で120mm迫撃砲RTを懸吊して運搬するヘリボン部隊

近SAMによる対空支援。車両は富士教導団よりの参加

C-1輸送機(入間)からの降下。12傘の安全性を向上させた13傘ならではの両扉からの濃密な一斉降下

CH-47JA(木更津)からファストロープで降下する隊員

(手前)特科教導隊(富士)の03式中距離地対空誘導弾「中SAM」
(奥)空自習志野分屯基地の「ペトリオットPAC2」

後続部隊による残存した敵の撃破、海上・航空優勢の確保

岩屋防衛大臣を輸送する特別輸送ヘリコプター隊(木更津)の EC-225LP

岩屋毅防衛大臣の挨拶

野田前総理大臣は毎年応援のため来場する

グラフ特集2 百里基地航空祭2018

12月2日、百里基地（茨城県小美玉市）において航空祭が開催され、基地所属のF－4、RF－4、外来のF－15による機動飛行、模擬対地爆撃や、百里救難隊のUH－60Jによる救難展示が行われた他、地上では81短SAMの動作展示、格納庫では百里基地のエイサー部による演舞や機体展示などが行われ、模擬売店においては自衛隊グッズなどの売店が賑わった。

航空自衛隊の戦闘機として40年以上日本の空を守り続けてきたF4は、現在百里基地の第301飛行隊、第302飛行隊と岐阜の飛実のみで運用されており、退役が近い。

F－35Aへの機種変更を控え、2018年航空祭がF－4のファイナルとなる第302飛行隊では、部隊マークの「尾白鷲」をデザインした記念塗装のF－4を2機用意、1機は紅白基調の塗装でもう1機は黒基調の派手な塗装を機体全面に施したものだ。この日は曇り空の下、大勢のファントムファンらが訪れ、「F－4の尾白鷲」との別れを惜しんだ。

百里基地発祥の第301飛行隊のF-4EJ改の列線。部隊マークは筑波山の「ガマガエル」を図案化したものであることから、「ケロヨン飛行隊」の愛称で呼ばれる事も多い。

茨城県のシンボル筑波山を背景にタキシングを行うウッドペッカーマークの偵察航空隊第501飛行隊のRF-4E。偵察航空隊も2019年度末に廃止される予定で、それに伴いRF-4も退役する予定である。

2019年が第302飛行隊のF-4EJ改運用のラストイヤーとなるのを記念し、赤と黒を基本色とした記念塗装機が登場した。最初に通称「白ファントム」が登場したが、航空祭の目前に「黒ファントム」も登場、両機共に大勢のファンを魅了した。

第302飛行隊は「オジロ鷲」飛行隊マークがシンボルのF-4EJ改の運用を2019年3月末で終え、爾後三沢基地に移転しF-35Aへの機種変更と部隊改変を行う予定。

第501飛行隊のRF-4E、第301、302飛行隊のF-4EJ改による編隊航過飛行展示。

戦闘下での離陸を想定した「TACデパーチャー」における「コンバットブレイク」を行う第301飛行隊所属のF-4EJ改。

航空自衛隊航空総隊 航空救難団隷下の航空救難部隊の百里救難隊所属の新鋭機UH-60JⅡ。空中給油用のプローブをはじめ、防護装置なども追加された。